

IN THIS ISSUE:

Hot Issue

TICAD V 開催に向けて4種類のアフリカ開発関連報告書を発刊

第5回アフリカ開発会議（TICAD V）が、6月1日から3日まで横浜で開催されます。今年は1993年に第1回会議が東京で開催されてから20年、アフリカ統一機構（OAU）が設立されて50年の節目に当たります。

[READ MORE](#)



Review

南米ペルーで開催された世界経済フォーラムでJICA研究所の代表が発表

南米ペルーの首都リマで、4月23日から25日までの3日間、世界経済フォーラム・ラテンアメリカ地域会議（World Economic Forum on Latin America）が開催されました。

[READ MORE](#)

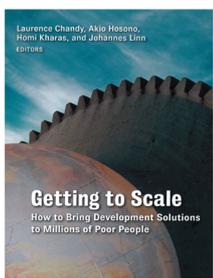


Review

北京で開催された国際開発セミナーでJICA研究所副所長が講演

5月7日に中国、北京で開催された「中国国際発展研究ネットワーク（CIDRN）」主催の公開セミナーに、研究所の北野尚宏副所長が招聘され、講演を行いました。

[READ MORE](#)



Review

JICA研究所とブルッキングスとの「スケールアップ」共同研究の成果が発刊

貧困層に対する開発の取り組み規模を拡大し、より効果的な結果を得るためには何をすべきであるかを探究した書籍が、ブルッキングス研究所出版から4月に発刊されました。

[READ MORE](#)

TICAD V開催に向けて4種類のアフリカ開発関連報告書を発刊

第5回アフリカ開発会議 (the Fifth International Conference on African Development: TICAD V) が、横浜で6月1日から3日にかけて開催されます。今年は、1993年に第1回会議が東京で開催されてから20年、またアフリカ統一機構 (OAU) (現 African Union) が設立されて50年の節目に当たります。

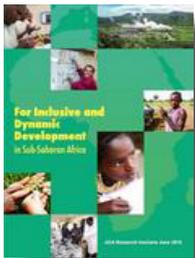
今回の会議は、「Hand in Hand with a More Dynamic Africa」を包括的なテーマとして、アフリカ諸国の長期的・持続的な開発を実現するために、アフリカ諸国と国際社会がどのように取り組んでいくべきかを議論する場となります。

日本は、国際社会のアフリカ開発への関心を喚起するため、国際機関と協力し、1993年に第1回ア

フリカ開発会議を東京で開催しました。2003年の第3回TICADでは、平和構築や人間の安全保障といった課題に焦点を当て、ルワンダやスーダンなどの平和構築に取り組みました。さらに2008年の第4回会議では、日本政府が対アフリカ支援として政府開発援助 (ODA) を倍増することを表明し、アフリカ経済の成長の加速化や環境・気候変動対策などを考慮した援助を実施してきました。

こういった背景から、JICA研究所は、今回のTICAD V に向けて、アフリカ開発においてJICAが長年蓄積してきた経験や知見を総括した英文報告書を4冊発行しました。

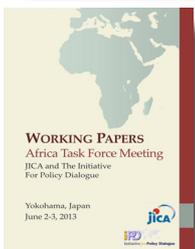
4冊の報告書は、下記のリンクからダウンロードできます。



1) For Inclusive and Dynamic Development in Sub-Saharan Africa

●著者

加藤宏、吉澤啓、牧野耕司、大塚啓二郎、相川次郎、島田剛、本間徹、村上裕道、藤田安男、敦賀一平、武田朝美、松下香、瀧澤郁雄、澁谷和朗、須藤智徳、室谷龍太郎、本田俊一郎、下田恭美



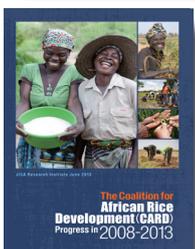
2) Africa Task Force Meeting ~JICA and The Initiative For Policy Dialogue (Columbia University)~

●著者

Joseph E. Stiglitz, Julia Cagé, Ha-Joon Chang, Sakiko Fukuda-Parr, Stephany Griffith-Jones, 細野昭雄, Danny Leipziger, Shahid Yusuf, Akbar Noman, Annalisa Primi, 島田剛



3) Development Challenges in Africa Towards 2050



4) The Coalition for African Rice Development: Progress in 2008~2013

●著者

窪田博之、大塚啓二郎、加治佐敬、木島陽子、中野優子、Yukinori Ito、Ellen Payongayong

南米ペルーで開催された世界経済フォーラムでJICA研究所の代表が発表

南米ペルーの首都リマで、4月23日から25日までの3日間、世界経済フォーラム・ラテンアメリカ地域会議(World Economic Forum on Latin America)が開催されました。本会合は、「Delivering Growth, Strengthening Societies」のテーマで、中南米諸国や諸外国からのリーダーが出席し、この地域の持続的な経済成長と社会の発展を達成するためには、どのような革新的な取り組みが必要かについて議論する目的で開催されました。

会合の冒頭は、ペルー、メキシコ、パナマ各国の大統領による開会スピーチで始まり、その後テーマ毎にセッションが実施されました。JICA研究所からは、細野昭雄シニア・リサーチ・アドバイザー(SRA)が出席し、インフラをテーマにした2つのセッションで、南米地域においてJICAが実施した主なプロジェクト事例を紹介しました。

1つは、「Infrastructure: A Gateway to the Future」のセッションで、細野SRAが、「Integrated and Multi-sectoral Approach to Infrastructure Development」の題目で発表しました。

この中で細野SRAは、ペルー、ブラジル、パラグアイ、ボリビア各国におけるJICAの総合的で多岐にわたるインフラ開発プロジェクトの事例を紹介しました。もう1つの「Building Resilience to Natural Disaster」と題されたセッションでは、ブラジル、サンパウロのチエテ川のプロジェクトにおいて、複数の目標(洪水による災害の防止、河川の汚染除去、水資源の管理、上流住民への安全な水の供給)をすべて同時に達成した事例を発表し、これらのJICAプロジェクトが、インクルーシブで持続可能な開発に貢献したことを強調しました。

細野SRAは、本会合が「資源が豊かで、経済成長を遂げている中南米地域への関心が高まる中、中南米地域のみならず、世界各国からの指導的立場にある代表者が参加したことにより、この地域の国際的役割が高まりつつあることを実感できる会合であった」と印象を語っています。



細野SRA

北京で開催された国際開発セミナーでJICA研究所副所長が講演

5月7日に中国、北京で開催された「中国国際発展研究ネットワーク(CIDRN: China International Development Research Network)」主催の公開セミナーに、研究所の北野尚宏副所長が招聘され、講演を行いました。本セミナーは、中国と国際開発をテーマにした第2回目の会合となります。

北野副所長は、「日本、中国、韓国の対外援助の経験と教訓」と題する講演の中で、①日中韓3か国の開発援助における協力と競争の現状、②日本のASEAN諸国や中国等に対する援助事例に基づいた「アジア型援助モデル」の特徴、③3か国の開発援助分野での今後の交流について論じました。

本セミナーには、中国の研究者や政府関係者、国際機関、二国間援助機関関係者等60名以上が参加し、3名のコメンテーターをはじめ、中国の研究者等から率直なコメントが多数寄せられました。第5回アフリカ開発会議(TICAD V)で打ち出される予定である日本の対アフリカ支援の重点分野や、青年海外協力隊の現況についての質問もあり、日本の援助に対する関心の高さがうかがわれました。研究所は、今後もこのような議論の場を生かし、中国の研究者と積極的な意見交換を行っていく予定です。

JICA研究所とブルッキングスとの「スケールアップ」共同研究の成果が発刊

貧困層に対する開発の取り組み規模を拡大し、より効果的な結果を得るためには何をすべきであるかを探究した書籍『Getting to Scale: How to Bring Development Solution to Millions of Poor People』が、ブルッキングス研究所出版から4月に発刊されました。

「スケールアップ」とは、開発援助における試験的プログラムや小規模な成功事業の規模拡大および継続を図り、その効果をより多くの人々へ波及させていこうという取り組みです。本書籍では、戦略的・体系的なスケールアップ手法による貧困削減のための援助の成功事例を紹介し、より広範囲で持続的な援助効果を得るための方策について多角的に検討しています。

今回の出版にあたり、JICA研究所からは、**細野昭雄**前所長（現シニア・リサーチ・アドバイザー（SRA））が、ブルッキングス研究所のLaurence Chandy研究員、Homi Kharas上席研究員、

Johannes F. Linn上席研究員と共に編著を担当し、**加藤宏**研究所所長と細野SRAが共著で第8章「Meeting the Demand of the Poor: Two Cases of Business-Led Scaling Up at the Base of the Pyramid」を、細野SRAが第9章で「Scaling Up South-South Cooperation through Triangular Cooperation: The Japanese Experience」を、また、加藤所長と**本田俊一郎**リサーチ・アソシエイトが共著で第11章「Scaling Up in Education: School-Based Management in Niger」の執筆を、それぞれ担当しました。

本書籍は、より多数の開発援助担当者が、スケールアップに系統的に取り組むきっかけとなることを期待して出版されました。

詳細は、下記のサイトをご覧ください。

<http://www.brookings.edu/research/books/2013/gettingtoscale>

